

お 知 ら せ

「鉄と鋼」埋草記事投稿のお勧め

本会会員はどなたでも会誌「鉄と鋼」にコラム、統計等の埋草記事を投稿することができますので、振るつてご投稿下さるようお勧めいたします。

埋草記事は会誌の解説、論文等の余白頁に掲載いたします。

(埋草記事) コラム、統計等

特に記事内容の定義はいたしません、何らかの形で本会会員に関心をもたれる内容であるものとします。

(記事の量) 所定の原稿用紙2枚(1000字)程度(会誌刷り上り1/2ページ程度)

(記事の掲載) 記事の掲載に当たっては、和文会誌分科会で査読をいたします。従つて、掲載にふさわしくないと判断された場合は返却することもありますのであらかじめご了承ください。

なお、採用された記事については薄謝をさしあげます。

掲載された記事の中から、和文会誌分科会で優秀作品2~3件を半年ごとに選考し埋草賞をお贈りします。

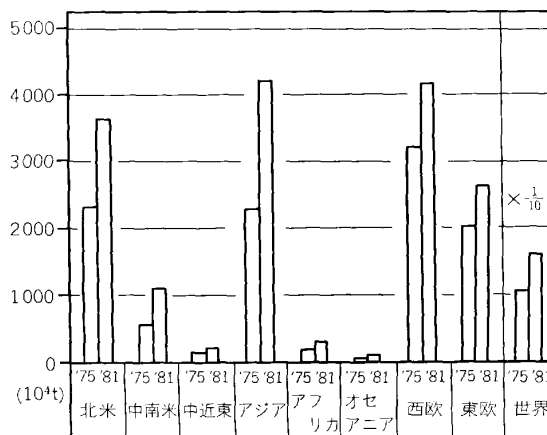
統 計

電気炉粗鋼生産量の動向

図は電気炉による粗鋼生産量の経年変化を世界の地域別に示したものである*。北米・アジア(含日本)・西欧・及び東欧でその伸びが特に大きい。これは石油ショック後、油田地域を除いて、製鉄所が建設されなくなつたため、鋼材需要増に対しては、鉄鉱石の還元エネルギーが省略できる鋼スクラップを原料とする電気炉工場が建設、増設された勘定になる。高炉メーカーが休止高炉を動かさなければ、鋼材の漸増に対しては電気炉粗鋼が対応するものと考えられる。

* 本データは鉄鋼界報(昭和59年3月21日)第1323号より採用致しました。

((株)神戸製鋼所中央研究所 森 隆資)



電気炉による粗鋼生産量の地域別・年代変化

編集後記

和文会誌分科会で「鉄と鋼」編集のお手伝いをするようになってから4年近くになります。毎月の編集委員会では検討している編集内容にあまり大きな違いがあるようにも思われませんが、振り返つて通覧しますと、かなりの変化があることがわかります。ちなみに、この編集後記も5年前にはありませんでした。なんと云つても大きな変化は、鉄鋼と必ずしも直接関係のない論文、解説、技術資料などの増大です。

昨年11月号および12月号の会告、さらには12月号の巻頭言でもお知らせし、本新年号の会長のご挨拶にもありますように、鉄鋼協会も新しい分野として材料・素材全般を協会活動に取り入れることとし、創

立70周年に当たる今春の第109回講演大会を手始めに、その具体化を進めることになりました。

これに伴い和文会誌もその内容が大幅に変化するであろうと思われる方もありまじょうが、どちらかと言えば「鉄と鋼」の内容の変化は、今までの編集方針の発展という形となるでしょう。言い換えれば、「鉄と鋼」は今回の協会活動拡大の方途を無理なく受け入れる下地が整つていると言えまじょう。

新しい年を迎え、今回の新しい試みによつて、協会員皆様の活動が従来にも増して活発になることを確信いたしております。

(M. K.)